広報展示室 Koho Gallery

第29回

アートリンクとちぎ2007
企画展「川上澄生―アコガレの軌跡―」

川上澄生「婦人と南蛮船」革、木版墨刷、手彩色　1972（昭和47）年
栃木県立美術館所蔵　ⓒ川上さやか

一生を独り身で過ごすことすら想定していた澄生だが、43歳のとき北海道出身の小坂千代と結婚し１男２女を授かる。孤独に浸った彼も晩年には幸せな家庭を築いたようだ。

ご紹介するのは、そうした最晩年の作品。1972（昭47）年９月に開催予定の「川上澄生父子展」に出品するために制作されたものである。この年の８月、長女みふねの婚家（岐阜県可児市）にて制作し、宇都宮に戻ってから刷り上げている。しかし９月１日、澄生は心筋梗塞のため急逝（享年77）。これが絶作となってしまった。

長男不盡氏によれば、右側の婦人４人は家族（左から長男の嫁、２人の娘、そして４月に亡くなったばかりの千代夫人）だという。画中に家族を登場させたのは、「父子展」への出品を念頭においていたためだろうが、澄生を見守る温かい家族像が浮かんでくるようで、孤独にさいなまれつつもそれに陶酔した彼の前半生を知る私たちとしては、ほっとできる作品でもある。

ところで、南蛮船の舳先には婦人たちに手を振り返すような像がついている。家族を置いて自らの空想世界へと入っていく澄生の心情を示したものであろうか。だが、これが本当の別れになるとは彼自身も想像し得なかっただろう。

家族に見送られ、南蛮船に乗って澄生は空想の国へ永遠に旅立った。生涯を夢に遊んだ版画家は、ついに自身が育んだ夢の国の住人となったのだ。澄生は、いまもなお南蛮船の上で空想の地図を広げているにちがいない。

※本作は企画展「川上澄生ーアコガレの軌跡ー」後期（３月２日（日）まで開催中）に出品されています。

那珂川町馬頭広重美術館学芸員　津田卓子

ばとうの観光写真コンテスト受賞作品　入選

ミニギャラリー

謹みて　渡部久恵さん（宇都宮市）

南平台温泉の春　平野さよ子さん（大田原市）

ミニギャラリー作品募集！

あなたの作品をここに出展してみませんか？

絵画、写真、絵手紙などの作品をお待ちしております。

問い合わせ：企画財政課
☎0287－92－1114

No.29　平成20年2月10日号　●編集／企画財政課　☎0287-92-1114　Fax0287-92-1316
●発行／那珂川町役場／栃木県那須郡那珂川町馬頭409　URL http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp

PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は植物性大豆インキを使用しております。